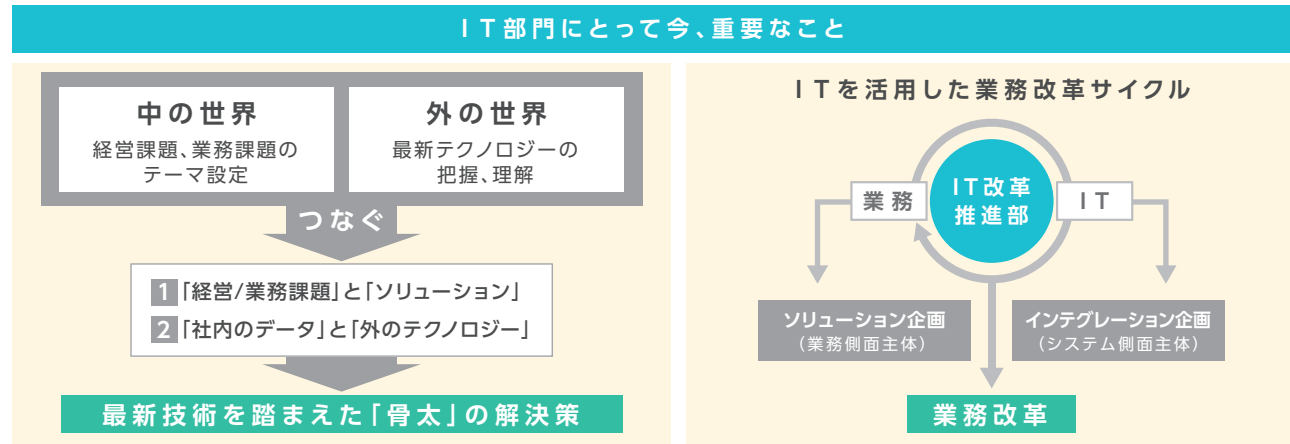




IT改革推進部

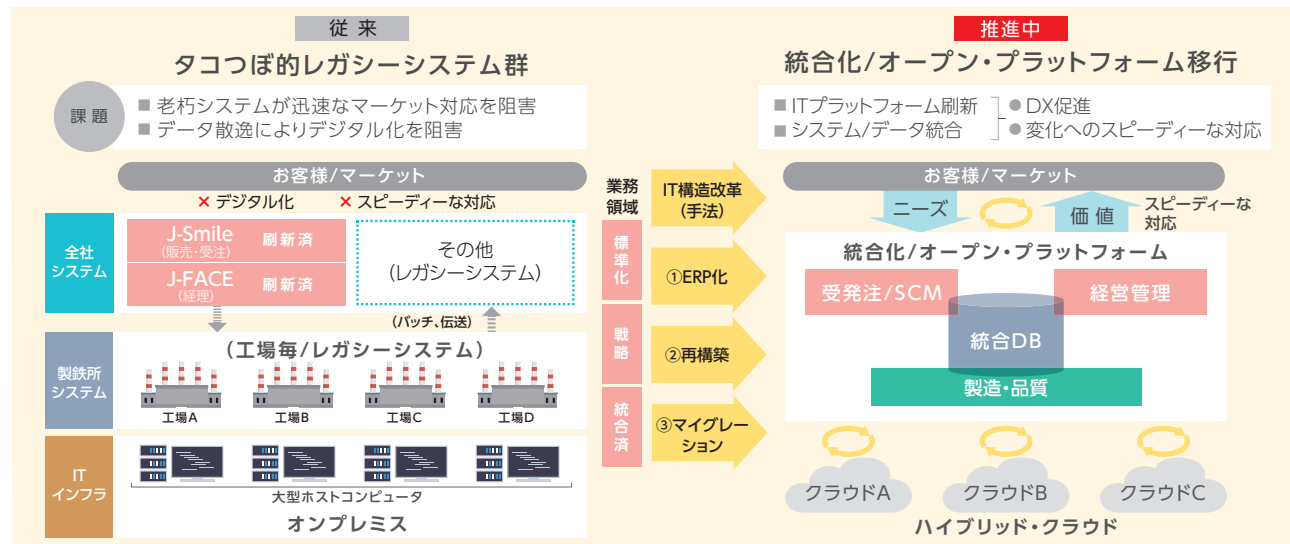
インフラや情報セキュリティ等のITの全社最適化を考えつつ、最新テクノロジーを活用することで業務改革を推進、実現し、効果をフォローするのが我々のミッションです。IT部門にとって今重要なことは、経営課題・業務課題の中から業務部門と一体となってテーマを設定し、最新ICTの研究・適用検討とつなぎあわせて解決策を立案・実施していくことです。重要な案件については、ITステアリング会議にてIT戦略基本方針を確認し経営者が意思決定を行って実施しています。

ITを活用することで業務改革を推進、実現し、効果をフォローする。(IT改革推進部ミッション)



JFEスチール 全社(コーポレート)IT戦略

レガシーシステムを刷新し、DX(デジタルトランスフォーメーション)の促進、かつ環境変化へのスピーディーな対応を可能にするITプラットフォームへの構造改革を推進中。



環境変化に柔軟に対応できるITインフラへ構造改革し、DX推進!

JFE Voice!



ITインフラの企画、管理を担当しており、直近は、販売・受注システム「J-Smile」をはじめとする本社システムの構造改革に取り組んでいます。ホストコンピュータで稼働していたシステムの品質をできる限り担保しつつ、オープンプラットフォームへ移行するものです。さらに、周辺システムとの連携、運用効率化、災害時の復旧対策なども並行して整備しています。検討範囲が広く、苦勞するところも多々ありますが、社内外のさまざまな立場のメンバーと協力し合い、環境対応への迅速化とDXの推進を目指していきます。

IT改革推進部 小林 健一

グループ共通経理システム刷新による業務改革・標準化

世界最新のERPを導入し、基幹システムの刷新および業務改革を推進。JFE-HD、スチール含めグループ会社81社の経理業務を標準化。

JFEにおける国内外の事業展開、IFRSへの対応、業務の簡素化や効率化といったテーマを支えるためにIT基盤の見直しが必要と判断し、2018年2月に基幹システムである「J-FACE」を刷新しました。「製品の特性を最大限活用した新業務およびシステム構築」という方針を徹底したことで、9ヶ月間で当社およびJFEホールディングスへ導入するとともに、グループ会社79社への展開を11ヶ月間という短期間で構築できました。またグループ共通経理システム全体のサーバー台数を75%削減し、維持管理コスト削減も実現しました。この取り組みは「SAP Innovation Awards 2018」や「IT特別賞(システム統合賞)」の受賞等、社外からも高い評価をいただいております。

プロジェクトの課題

- ①IFRS対応要
- ②サポート切れ間近(期限までサーバ1.5年、ERP2年)
- ③アドオンが多い複雑なシステム(周辺システム120以上)
- ④グループ会社含めた切り替え実施(81社)

プロジェクトのコンセプト

国内外の大手企業で広く利用されている製品の標準機能(デファクト)を活用し、グローバル経営を支えるシンプルな会計システムを迅速に構築

プロジェクト結果

Quality	重大障害ゼロ!
Cost	当初予算内!
Delivery	当初計画どおり! JFEスチール：9ヶ月 グループ展開：11ヶ月

システム刷新後の構成

グループ共通経理システム

- 電子決裁
- 仕訳
- 資金出納
- 固定資産 建設仮勘定 (ProShip, ProPlus)
- 一般会計 (SAP S/4 HANA)
- 汎用解析

システム刷新による効果

1 開発費	対スクラッチ開発	△ 63%
2 開発期間	対スクラッチ開発	△ 66%
3 サーバー台数	対従来	△ 75%
4 維持管理費	対従来	△ 17%
5 帳票数	対従来	△ 55%

2018年度決算トラブルゼロ
 工場、グループ会社ごとにバラバラな業務が標準化され、異動時の引継ぎが楽になった。

社外からの評価/社外への事例の紹介

平成30年度IT賞受賞	IT賞「システム統合賞」受賞
SAP Innovation Award 2018 受賞	アジア太平洋において最もイノベーションリーダーシップを実現した事例として「Regional Choice」を受賞。
Gartner社レポート掲載	「ポストモダンERPプロジェクト成功の秘訣」に成功事例として掲載。
他社からのプロジェクトヒアリング	大手電力、保険、電制会社等より多数ヒアリングあり。

プロジェクトチーム一丸となり、短期間で基幹会計システムを刷新!

JFE Voice!



グループ共通経理システム「J-FACE」導入から10年以上経過し、利用者にとって慣れ親しんだ基幹会計システムを大幅に変更することになりました。そのため、今回の刷新の目的・理由を十分に説明し、かつ新システムの操作教育を短期間で実行するという課題については、プロジェクト関係者ほぼ全員で取り組みました。今後も、利用者の利便性向上・業務改革の一助となる「J-FACE」を目指してまいります。

経理部 中井 水奈子



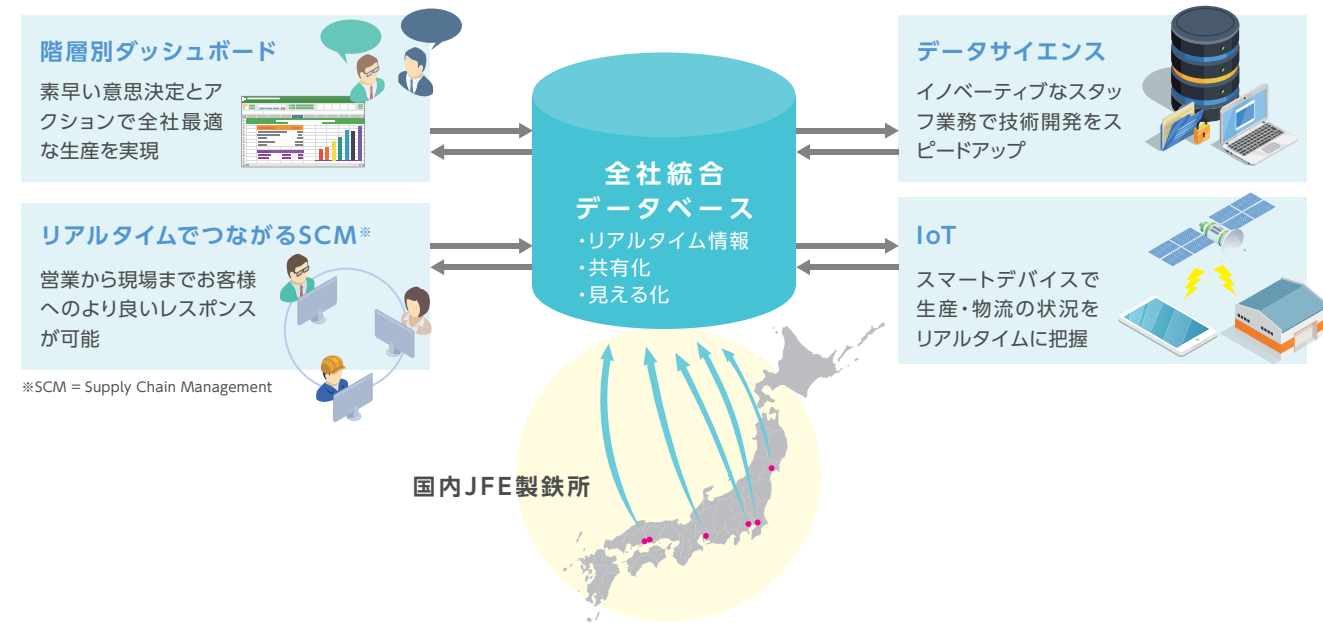
製鉄所業務プロセス改革班

最新のICTで製鉄所基幹システムを刷新。
業務プロセス改革とともに新たな価値の創造へ。

各製鉄所の基幹システムを次のような方針で刷新を進めています。①最新ICTを適用したシステム基盤の刷新、②業務システム再構築による製造ノウハウ継担保と業務共通化、③データ体系を標準化した統合データベースの整備

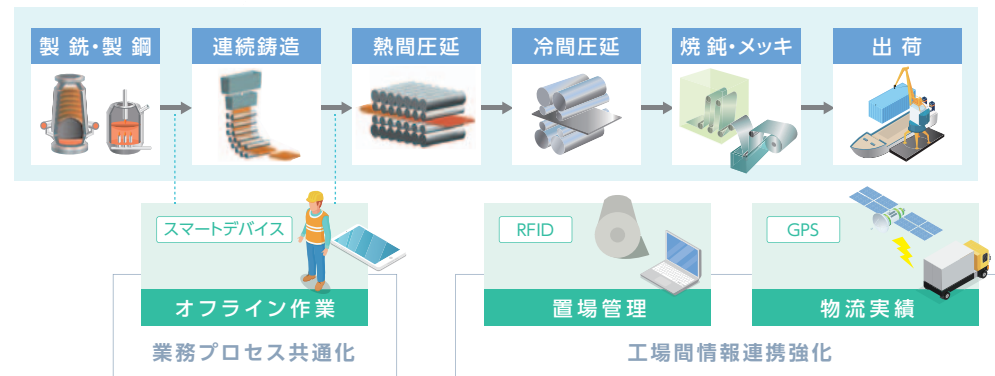
このシステム刷新を通して、「全社の情報を全員で共有・活用」する業務基盤を実現し新たな価値を創造するワークスタイル変革を目指します。

システム刷新で実現する新しいワークスタイル



生産管理の高度化

これまでシステム化が遅れていたオフライン作業を共通化・システム化し、かつ最新のIoTにより製造現場のモノ・設備の動きをリアルタイムに連携します。これらの情報が集約された全社統合データベースを活用して、全社最適な生産計画の策定や製鉄所間を越えた一貫生産管理を実現します。



将来のためのシステム基盤の構築に貢献

JFE Voice!



入社以来、製鉄所の厚板製造現場でオペレーション業務を担当してきました。今回、厚板基幹システムを刷新するプロジェクトに参画し、オペレーション用端末画面設計、関連機能開発支援の業務を担当しています。より分かりやすく、より使いやすいシステムに刷新するとともに、将来の業務のレベルアップ、効率化が可能なシステム基盤の構築に貢献していきます。

製鉄所業務プロセス改革班 田口 健太 猪股 達夫 榎 大介

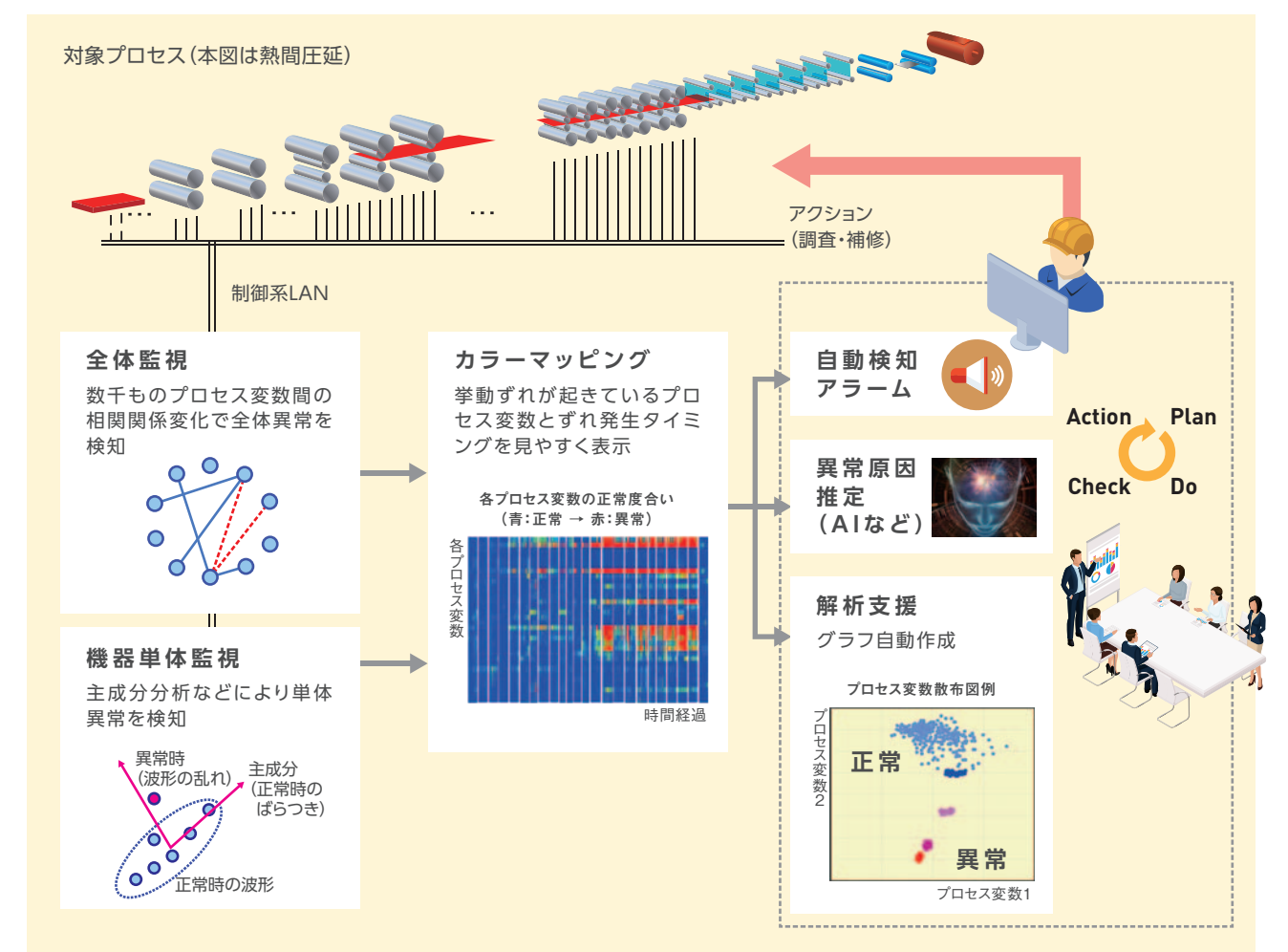


データサイエンスプロジェクト部

気付きにくい小さな異常もデータサイエンスを駆使して検知。
製鉄所各プロセスの安定稼働を実現!

上工程から下工程まで多くのプロセスを経由する鉄鋼生産では各プロセスを健全に保ち安定稼働させることが重要となります。保全オペレータの定期巡回では気が付きにくいプロセスの小さな想定外挙動までを高度統計解析を駆使してオペレータに注意を促す仕組みを開発し、各プロセスへの展開導入を図っています。

生産プロセスの異常を全体動作・機器単体の両面から自動監視



DS技術を現場活用技術へ深化

JFE Voice!



現在、ビッグデータ解析技術を活用した設備異常診断技術の開発に取り組んでいます。予防保全の考え方を導入するにあたり、異常を自動検知し、その対処方法および考えられる要因をアナウンスするシステムを独自開発することで、現場の対応スピードの向上を目指しています。

西日本製鉄所(倉敷地区) 熱延部熱延技術室 須江 龍裕